環境学研究科成績評価基準

平成１９年６月２０日専攻長会議

1. 各授業科目の成績評価は、担当教員が環境学研究科及び専攻の理念・目標に沿った上で、授業科目の特性に応じた到達目標を設定し、その到達目標に対する学生の到達度に基づき行う。到達目標と評価の方法はシラバスに明示する。

2. 成績評価は、各科目の特性を踏まえて、授業の形態と内容に対応した適切で多面的な方法により行い、授業及び授業時間外の自己学習を通して得られた学習効果も適切に反映されるように努める。そのことはシラバスに明示する。

3. 成績評価は、シラバスに明示した成績評価基準にしたがって行い、優、良、可、修了、認定及び不可の評語をもって表す。
   優（100 点～80 点）、良（79 点～70 点）、可（69 点～60 点）を合格、不可（59 点以下）を不合格とする。ただし、必要と認める場合は、優、良、可の評語に代えて修了又は認定とすることがある。
   また、履修登録をしたにもかかわらず、試験を受けていない等で成績評価の必須の資料を欠く場合については不可とする。

なお、担当教員は、成績評価に関して予め学生によく周知させておくとともに、学生からの質問に対して適切に対応しなければならない。

＜平成１９年度以前入学者用＞

５．岡山大学大学院環境学研究科における修士論文の認定基準

１．修士論文申請者は，社会において高度の専門性を生かし，問題設定と解決に向けた研究や技術開発に取り組むことのできる能力とその基盤となる学識を有していること。

２．申請の修士論文は，信頼性の高い結果と誠実な考察に基づいて，明快かつ論理的に書かれていること。

３．研究が共同研究としてなされたものである場合，研究遂行が申請者によって主体的になされていること。

以　上

５．岡山大学大学院環境学研究科における博士論文の認定基準
Recognition standard for the Degree of Ph.D (Doctorate)
at Graduate School of Environmental Science, Okayama University.

１．博士論文申請者は，社会において高度の専門性を生かし，自立した研究者として研究活動に従事しうる研究能力とその基盤となる豊かな学識を有していること。

Applicant of the Degree of Ph.D (Doctorate) shall qualify the candidate for research activities and other kinds of work in the community where a high level of scientific insight method is required.

２．申請の博士論文は，信頼性の高いデータと誠実な考察を基づいて，明快かつ論理的に書かれていること。

The dissertation is written and expressed by candidate's own words clearly and incorporate candidate's own ideas and judgment, based on genuine facts and data obtained from the research studies conducted.

３．研究成果は，独創的で新規性に富み，価値ある結果を含んでいること。

The works submitted is a work demonstrating constructive data and innovative approach to the problem analysis and solution of the stated works.

４．研究が共同研究としてなされたものである場合，研究遂行が申請者によって主導的になされ，かつ重要な役割を果たしたことが認められること。

In the case of collaborative research, the applicant has contributed major efforts in completing the research.

５．申請者を著者として含む参考論文が添えられていること。

Published articles authored by the applicant are attached.

なお，参考論文の詳細（必要論文数等）に関しては，正指導教員又は紹介指導教授若しくは准教授が適切に申請予定者へ周知することとする。

Number of published articles required for the award of degree will be inform by the supervisor or co-supervisor if the candidate personally.

以　上

◎参考論文の定義

岡山大学大学院環境学研究科博士の学位に関する内規の運用について（抜粋）

【第２条関係】

第１　<略>

第２　第１項第６号の「参考論文」とは，論文内容の客観的評価資料として提出されるものであり，次の各号の一の要件を備えているものであること。

A refereed paper define as material which logically connected to the dissertation that was submitted and evaluated objectively, it must meet the conditions described below:

一　研究内容の一部を審査付き（掲載のための査読制度のある）学会誌等に公表（掲載決定されたものを含む。）した論文で，他の学位論文の参考論文とされていないもの。

1. Part of the research contents has been published as reviewed paper in an academic journal (including journal accepted for publication), and the dissertation has not been submitted for publication.

二　一により難いと判断される特殊な分野にあっては，正指導教員又は紹介指導教授若しくは准教授（以下「主査」という。）が，あらかじめ研究科長に届け出て，専攻長会議の承認を得た上，当該分野の権威ある専門家２名以上に依頼して前号の論文に相当するとした客観的評価に関わる判断資料が添付されたもの。

2. In the case of a specific field that is difficult to meet the requirements as described in the requirement 1, supervisor or co-supervisor should make a written request for exemption from the Dean of Graduate School. After obtaining approval from the University Senate, 2 papers (journals) reviewed by 2 related independence professional parties must be submitted.